

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891100026		
法人名	株式会社 ケアホームなかお		
事業所名	グループホーム 香	ユニット名	-
所在地	〒300-2505 茨城県常総市中妻町1023-2		
自己評価作成日	平成25年11月5日	評価結果 市町村受理日	平成28年5月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報公表支援センターのホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0891100026-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年12月17日	評価機関 決 済 日	平成28年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

経営理念である「地域住民と共に笑顔を絶やさない生活環境をめざして」の下、ご利用者様だけでなく、そのご家族や職員、ケアホームなかおに関わる方々皆が笑顔になれるよう努めております。日常生活の中で家事やお手伝いを通じて、機能訓練を行ったり、ご自身でできることまで介助をするのではなく、ご自身の能力を最大限活かしながらケアをしたり、個人個人に合わせたレクリエーションや活動を行ったり、季節のお花や各地名所へ赴き、気分転換を図ったり、様々なイベントを通じて、楽しい時間を共に過ごしたり、全ては「笑顔を絶やさない」ために事業所として特に力を入れている点です。

また、地域密着型ということで地域の方々と共に様々なイベントや介護勉強会、介護懇談会などを通じて交流を図っております。地域住民の一員として地元根付いた経営を展開できるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

関東・東北豪雨で地域一帯が被災し、事業所も多大な被害を受けたが、管理者と職員が一丸となって利用者の安全と安心した生活を最優先に考え、地域や多方面の協力を得ながら、早期に事業所の復旧に漕ぎ着くことができた。

管理者や職員は、利用者が我が家でも過ごすような安心で温かい事業所となるよう、心がけて支援に努めている。

事業所が実施する地域交流会には利用者の家族等を含め、大勢の地域住民の来訪があり、ボランティアによる吹奏楽の演奏やバザー、抽選会等を実施し、地域住民との交流の機会となっている。

毎日出かける食材の買い出しに、利用者に交代で同行してもらったり、年間の外出計画を立てて、初詣や季節毎の花見、紅葉狩り等、外出する機会を多く取り入れて利用者が毎日明るく楽しく生活を送れるよう支援に努めている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を職場の誰もが目にする場所に掲げ、共有するようにしている。 ・笑顔の絶えない生活環境を提供するよう、全職員が努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、職員がいつでも確認できるよう玄関や台所の見やすい場所に掲示している。 月1回の職員会議で理念の確認を行い、理念の共通理解に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域交流会や文化交流会、地域の祭りにも参加している。 ・日中は玄関を施錠せず、開かれた施設となっていて、いつでも近隣の方々が訪ねてこられるようになっている。	年1回の「地域交流会」に地域住民を招待し、ボランティアによる吹奏楽やハンドベルの演奏、バザー、抽選会等を行い、地域住民と交流を図っている。 事業所主催の「認知症・介護懇談会」では家族等や地域住民が参加し、市職員のJOSOハッピー体操の指導や消防署職員によるAEDの指導のほか、職員による認知症の寸劇などを実施している。 事業所に介護相談窓口を設け、地域で暮らす認知症の方やその家族等の相談を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・過去3回、認知症・介護地域懇談会という形で、介護知識であったり、認知症の知識や予防であったり、を地域の方々に発信してきた。市役所の方々、ご利用者様ご家族など、たくさんの協力者に協力して頂いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議では事業所側からの報告をしたあとに必ず毎回、ご参加された方々よりご意見、ご質問の時間を設けている。そこで頂いた貴重なご意見を基に、数々の改善を行うことができています。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、区長、民生委員、職員が参加して2ヶ月に1回開催し、事業所の運営状況や事業所で実施した「認知症・介護懇談会」について報告している。 委員の意見を受けて、地域パトロール隊の活動を事業所でも取り入れ、利用者と職員が散歩に出る際に、ゴミ拾いと同時にパトロールを行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・各種書類など、申請時に市役所へ足を運んだ際、事業所の実情などを伝えるように努めている。また、市役所職員の方から、声をかけていただけることもある。そういったところで、協力関係を築くようにも努めている。	介護保険の更新申請書類等の提出時や、運営推進会議の案内を持参する際には、市担当者に事業所の現状等話しをして、日頃より協力関係を築いている。 運営推進会議や介護懇談会、地域交流会等の機会に市担当者を招待して話をしてもらったり、情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・年に一度、身体拘束・虐待防止委員会を開催し、研修会を全職員で行っている。 ・また、身体拘束が必要な状況にならないようなケアや声掛け、環境の整備など、そちらに気を配っている。	年1回身体拘束・虐待防止委員会を開催し、全職員を対象に研修を行うなど、身体拘束の具体的な行為を正しく理解するとともに、管理者や職員は、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 事業所では現在身体拘束の対象になる事例はないが、今後止むを得ず身体拘束を行う場合に備えた書類等の整備をするまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、説明書や同意書、経過観察記録、再検討記録等の書類を整備しておくことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・年に一度、身体拘束・虐待防止委員会を開催し、研修会を全職員で行っている。 ・また、日ごろからストレスがたまらないよう、職員同士が声を掛け合いながら、日々の業務を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・年に一度、法令遵守委員会を開催し、研修会を全職員で行っている。 ・様々な制度の活用はできていない。その必要性が出てきたときには活用したいと考えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の際には重要事項説明書をご利用者様やご家族の方と共に確認している。また、そこで質問や疑問点などないか確認をしている。 ・また、施設の設備や居室、雰囲気などを事前に必ず確認して頂いている。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に意見箱を設置し、いつでもご意見等ある場合は意見ができるような環境にある。 ・ご家族が来所、面会の時などに職員が現状の報告をしているが、その際にご意見やご質問などがある場合はその場で受けて、それを運営に反映することができている。 	<p>管理者や職員は、利用者との日々の会話から意見等を聴くとともに、家族等からは面会や事業所の催し等で来訪時のほか、玄関に意見箱を設置して意見や要望を聴いているが、言い出しにくい家族等へ、無記名のアンケートなどを実施して意見を汲みあげるまでには至っていない。</p> <p>家族等から「男はつらいよ」のDVDの購入等の希望が出され事業所で購入し、利用者の余暇の活用役に役立っている。</p>	無記名のアンケート等を実施し、利用者や家族等の意見を汲みあげるとともに、出た意見等を運営に反映することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・年に一度、管理者と職員とで面談を行っている。そこで事業所や運営、上司に対して意見などないかヒアリングをしている。また、日々の何気ない業務を通じてヒアリングしていることもある。それを上と協議し、反映させている。 	<p>毎月の職員会議や年1回の管理者と職員の面談等で、職員から仕事の目標や意見、要望等を聞く機会を作っている。</p> <p>職員の意見を受け、利用者が車いすに乗ったまま体重測定ができる体重計を購入し、業務の軽減化につながっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤から常勤への変更、時給のアップ、社会保険への加入など、条件の整備を行っている。 ・また、各職員の資格試験の支援などで向上心を持ってもらえるよう努めている。 		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・2か月に一度のペースで勉強会、研修会を行っている。 ・なぜ、この介助が必要なのか、なぜ、この処置が必要なのかなど、実際の現場で管理者が各職員に伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・同業者主催の報告会や講習会などには積極的に参加するようにしている。また、そこで学んだことを職場に持ち帰り、職場内の研修会につなげ、サービスの質の向上を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前のヒアリング、アセスメントを十分に行い、全職員と情報を共有するよう努めている。 ・また、言葉からだけでなく、表情や仕草、声の質などからも読み取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・契約の際に困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾けるように努めている。また、初期の段階では預けたことへの罪悪感などあると思うので、ご家族の心のケアなどにも注意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・アセスメントをしっかりと行うようにしている。また、ケアマネジャーのみで情報を把握するのではなく、全職員で共有、意見することで多角的に支援を見極めるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は介助や介護をするだけでなく、お茶の時間には一緒にテーブルについてお茶をしたり、買い物と一緒にいたり、あくせく働くだけではないということを理解している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族とは来所、面会時に必ず職員が声をかけて、現状の報告やご意見などないかどうか確認している。もし、共に外出したいなど要望がある時にはその希望に応えられている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・近隣のご友人などが施設に訪ねに来られることがある。その際は断ることなく、居室での面会を行っていただいている。そこで昔話などして頂いている。	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所の把握に努めている。 事業所に利用者の家族等や友人が来訪した際は、お茶を出して居心地良く過ごせるように配慮し、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・席順に気を配り、その人の居場所の確保に努めている。その中で、馴染みの関係を築けたり、関わりを持てるよう支援している。 ・また、通所介護の方と良い関係を築けているご利用者様もおり、毎回、会うのを楽しみにされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・グループホームをご利用されていて、退所後、在宅介護となった方がいらっしゃるが、現在では、併設の通所介護に通われている。そこで、支援が継続的に行われている。現在では他事業所へ入所されている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・アセスメントから導き出すことに努めてはいるが、それだけでは不十分。入所されてからも何気ない会話の中から意向を汲みとったり、好みを聞き出したりして意向の把握に努めている。	職員は日々の暮らしの中で、利用者の行動や会話から思いや希望、意向を把握している。 意向の把握が困難な利用者の場合は、家族等から話を聴いたり、生活歴を尊重しながら利用者本位の支援に努めている。 利用者の思いや意向を全職員で把握し、共有するまでには至っていない。	普段の生活の中で把握した利用者の思いや意向を連絡帳等を活用し、全職員で共有できるよう検討することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前のヒアリング、アセスメントでの把握に努めている。 ・ご本人、ご家族からだけでなく、入所前に利用されていたサービス機関にも聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・職員間で連携し、毎日口頭での申し送りをして状態の把握をしている。 ・また、口頭だけではなく、重要な事項に関しては申し送りノートを活用し、全職員は出勤時必ず目を通すよう徹底している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアマネ単体で考えるのではなく、毎月の職員会議の中で各職員が意見を出し合い、それぞれの主張を認め、介護計画に反映させるようにしている。	介護計画は利用者や家族等の意見や希望を踏まえ、職員会議で職員の意見を聞いて、計画作成担当者が作成している。 モニタリングは毎月実施しており、長期目標は6ヶ月に設定している。 心身の状態等に変化があった場合は、現状に即した介護計画に見直し、家族等の来訪時に確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別の記録は日々の状態を記録するケース記録、医療機関との連携を記録する医療連帯記録がある。また、上記の申し送りノートを最重要として職員間で情報の共有を行い、実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人の状態や状況に応じて、福祉用具を導入したり、機能訓練用具を整備したり、対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・主治医に往診してもらっている。 ・地域の花の名所など季節によって様々な場所へ赴き、季節を感じていただいたり、気分転換を図って頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・主治医との関係は良好で、ご家族が希望されたことは主治医に伝え、適切な医療を受けている。 ・歯科や耳鼻科、皮膚科など主治医以外の医院へ受診する際も事前、事後どちらかで必ずご家族へ連絡するようにしている。	2つの医療機関が利用者それぞれの主治医となり、2週間と4週間に1回の訪問診療を受け、利用者の健康管理を行っている。 利用者や家族等の希望により他の医療機関を受診する場合は、職員が引率してその日のうちに受診内容を家族等に電話で報告している。 週1回は訪問看護の看護師の来訪があり、利用者の健康管理を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎週の訪問看護師の訪問時には現在の状況を伝え、必要としている看護を受けられるよう支援している。 ・訪問看護師と医療連携体制をとっているため、看護面で気になることは電話にて訪問看護師に相談、助言をもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 各利用者様の基本情報を整備して、救急搬送や入院時にはその情報を関係医療機関へ提出している。 また、入院中も毎日職員が通い、現状の把握や施設での様子等伝え、情報の共有を行っている。 	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 各職員にはターミナルケアマニュアルと看取り介護の研修を行っている。 ご本人が主治医より看取りの状態にあると判断された場合に看取り介護計画書を作成する。その際、ご本人、ご家族の意向、関係機関と相談協議を行い、作成している。 	<p>利用開始時に事業所の看取りの方針を家族等に説明し、書面にて同意を得ている。</p> <p>利用者が重度化した場合は、家族等と看取りの希望を含めた話し合いを行って介護計画を作成するとともに、家族等の同意を得ている。</p> <p>全職員が看取り介護の研修を受講し、共通認識を持って家族等や医療関係者とチームで支援する体制を整えている。</p>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の対策、マニュアルは整備されているが、訓練を定期的には行っていない。 転倒や出血、火傷等事例が起きた際に応急手当などの研修を事後で行っている。 今後は委員会等で定期的に行う必要性を感じる。 	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 年に2回の避難訓練を実施している。近隣住民の方にも協力して頂いている。訓練の際は訓練と行って行うのではなく、実際の災害と思って真剣に取り組んでもらっている。 	<p>避難訓練は消防署の立ち会いのもと、地域住民の協力を得て年に2回実施し、うち1回は夜間想定避難訓練を実施している。</p> <p>訓練後は全職員で反省会を開催し、訓練時の進行状態や課題等を話し合っって記録に残し、次回に活かしている。</p> <p>緊急時に地域住民の代表宅に連絡が行き、その後連絡網で地域住民の協力が得られるようになっている。</p> <p>災害に備えて飲料水やお粥、乾パン、簡易トイレ、ランタンなどを備蓄しているが、一覧表を作成して管理するまでには至っていない。</p>	<p>備蓄品の賞味期限を含め、数量等一覧表を作成して管理していくことを期待する。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ご利用者様全員に同じ声掛けをするのではなく、その人一人一人に合った声掛けを行うようにしている。	管理者や職員は、利用者一人ひとりの人格や個性を尊重して支援しているが、身体拘束委員会や虐待防止委員会で実施した職員へのアンケートで、職員の利用者に対する言葉遣いなど、今後の課題が見えてきた。 個人情報に関する書類は、職員以外入室しない事務所内の倉庫の鍵のかかる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・思いや行動に対して制限することなく、自由な生活をして頂けるよう支援している。また、全てを支援するのではなく、自ら行えることは自ら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事の時間もお本人が気分が乗らずに食べたくないときは無理に食べさせることなく、時間をおいて提供したり声掛けしたりしている。 ・入浴も体調をみて声掛けしているが、無理に入ってもらいたりはしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・なるべく、季節に沿った服装をしていたいにはいるが、夏に半纏を着たがる場合、強制的に着させないのではなく、どうしてもという時は希望に沿った格好をして頂いている。 ・自ら衣服を選択できる方にはその人らしい恰好をして頂いている。お化粧品もして頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・準備では皮むきや配膳、片づけでは、食器洗いや食器ふきを行ってくださっている。 ・食事中も孤立することがないように、みんなで食べる、ということを大切にしている。また、食事中の雰囲気も大切にしている。 	<p>遅番勤務の職員が、利用者と一緒に翌日の食材の買い物に出かけ、職員が調理している。</p> <p>利用者はできる範囲で食材の皮むき等の下準備や、テーブル拭き、食器拭き、おしぼり畳みなどを行っている。</p> <p>誕生会にはケーキを用意してお祝いをしたり、外食の機会も作っている。</p> <p>職員は利用者と同じテーブルに着き、食べこぼしや嚙下に注意を払いながら、利用者が楽しく食事ができるように支援している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・3度の食事以外に10時15時におやつを提供している。食事量、水分量も毎日記録している。状態を把握した上でその日摂取可能な量を見極めて提供している。摂取量の少ないご利用者様に対しては食事以外でも間食をしていただいて、全体の摂取量を増やしている。 	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアは毎食後はできていない。夕食後、就寝前に全ご利用者様に行っていただいている。また、拒否をされる方などには再度声掛けの仕方など工夫しながら行って頂いている。 	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日排泄チェック表を記入している。そこで排便の量や状態なども記録している。 ・パット、オムツ使用者、失禁される方などは排泄のパターンを個人で表にしてトイレ誘導するタイミングなどを工夫している。その結果、パットの使用数や失禁を減らすことにつながっている。 	<p>排泄記録表をつけることで、一人ひとりの排泄リズムを把握し、適切な時間にトイレへの声かけ誘導をすることで排泄の自立に向けた支援をするとともに、リハビリパンツの使用を減らす結果となっている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・過去に便秘が原因で大腸から出血し、入院をされたご利用者様がいます。その反省を活かし、現在では便秘気味のご利用者様の食事は刻みで柔らかい物を提供するようにしています。運動は促してはいるが成果が出ているかどうかは不明。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・個々に応じた入浴の支援は概ねできています。声掛けを行い、希望されないときは無理強いはしていません。夜間に入浴を希望されたことが過去にあり、初めは対応できなかったが、その後、業務改善し、対応可能となった。	入浴は週2回の午後を基本とし、利用者の希望によっては午前中や夕方への対応も出来る体制を作っている。入浴を拒む利用者には無理強いせず、タイミングを見て声かけし、入浴が楽しめるよう支援している。職員は季節に応じて菖蒲湯や柚子湯で利用者が楽しく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・それぞれの居室があるのでお休みしたいときは居室でお休みして頂いている。ただ、休んだら休みっぱなしではなく、時間をおいて居室の様子を観察するようにしている。 ・夜間のご利用者様の希望に沿う形で、電気は全て消すか少しつけておくかなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・各職員が内服薬を袋詰め対応しているご利用者様がいます。なので、どの方が朝何錠、昼何錠、夕何錠、効能など把握できている。 ・内服薬変更があった際は申し送りノートに記入し、情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・事前のアセスメントで趣味や生活歴が把握できるのでそれを活かした活動を提案している。その後施設での生活や会話などから新しい活動の提案をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日買い物に行く際にご利用者様と共に買い物に行っている。 ・ご利用者様の地元の祭りなどに職員と共に参加している。 ・季節の花を見たり行事にも参加している。 	<p>年間の外出計画を立てて、初詣から始まり花見や紅葉狩りなど、車いすの利用者を含め外出の機会を作って支援している。</p> <p>事業所裏手は遠くに筑波山の景観を眺めながら、利用者が外気に触れてゆっくと散歩ができるコースとなっている。</p> <p>日常的に食材の買い物等に利用者が交代で職員に同行し、出かけている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は居室内にお金を置き、管理していた方もいるのだが、水害後は事務所にて保管、管理している。 	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらから電話をかけることはほとんどしていない。ご利用者様あてにお電話を頂いたときは直接ご本人につなげている。 ・お手紙に関してもこちらから出すことはないが、ご利用者様あてのお手紙は直接ご本人に渡している。 	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様が混乱してしまうような物は共有の空間には置いていない。明るさ、室温、湿度には細心の注意を払っている。 ・共有空間の壁には季節を感じられるような工作物を飾るようにしている。それもご利用者様と共に作成している。 	<p>居間兼食堂には数台の加湿器や空気洗浄機を設置して衛生管理面を徹底しており、掃除も行き届いて清潔感を感じる。</p> <p>広い廊下は平行棒を使った運動や、余暇活動の時間等に有効活用している。</p> <p>廊下には利用者が職員と一緒に制作した、季節に合わせた貼り絵や塗り絵等の作品のほか、利用者の長寿のお祝いの賞状が飾られている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・席順やその人その人の居場所の確保にも細心の注意を払っている。 ・気の合うご利用者様同士で会話ができるように配慮している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・水害前のご自宅で使われていた家具や道具を持ち込んでいただき使用していたが、水害後は施設側で用意した家具を使用させていただいている。その後、ご家族が持ち込まれた物に関しては受け入れて、使用している。	居室には加湿器と災害を機にエアコンやベッド、寝具、カーテンを事業所で新しい物に買い替えて備え付けている。 利用者が家庭から持ち込んだ使い慣れた家具等は水害で使えなくなってしまったため、現在は事業所で用意した整理箆筒や家族等が持ち込んだもので間に合わせている。 家族の写真や外出時の写真を部屋に飾るなど、個々に居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・当施設では、できることまで介助することはしないようにしている。ご利用者様の能力を最大限引き出して、活かせるよう日々支援している。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム香

作成日 平成28年4月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族の意向や意見を汲み取れる場面が面会時の会話しかないことが問題である。	家族が口では言えない本音を探り出す。	無記名のアンケートを実施し、利用者や家族の意見、意向を汲み取り、実際のケアで実践する。	アンケートは既に実施。本音を探り出すまでには6～12ヶ月を要する。
2	23	利用者の思いや意向を全職員で共有する場が日々の申し送りや会議の場しかないことが問題である。	利用者の思いや意向を全職員でもっと深く共有する。	普段の生活の中での利用者の思いや意向をケース記録に残すようにする。又、会話や動作など思い、意向に関することを詳しくケース記録に記入し、全職員で共有を図る。	既に実施している。
3	35	備蓄品の管理が不十分であることが問題である。	備蓄品の管理を徹底し、維持する。	賞味期限や数量の一覧表を作り、毎月チェックを行う。	既に実施している。
4	6	やむを得ず身体拘束を行う際の書類の整備ができていないことが問題である。	やむを得ず、身体拘束を行う際の書類を整備し、家族にご理解を頂く。	同意書を作成し、家族に内容の説明を行う。	現在4名の家族から同意書を頂いている。完済まであと6～12ヶ月を要する。
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。